

事業のタネシート

活動地域・団体名：一般社団法人MIT

事業名称：多様な主体が活動できる持続可能なモデル林づくり（場づくり）		
あらすじ		
地域経済の好循環と森林生態系の改善に資する事業計画を持つ事業者・担い手が連携して森づくり・なりわいづくりを進めることができる森林を増やしていくために、まずは、小規模のモデル林を選定して実証実験を行う。		
ストーリー		
対馬では、森の持続可能な活用が十分にできておらず、森が荒廃している。林業に留まらず、様々な主体がなりわいを行う共有林において、森林資源を活用した地域経済の好循環と森林生態系の回復を目指して、持続可能な森づくりのプラットフォームを作り、多様な主体（行政・民間・個人）が森林という"場"を共有し、連携しながら森づくりの実践的で横断的なプロジェクトを実証的に進めていく。そのために、まずモデル林を確保し、自由に多様な主体がなりわいを始める可能性を探る場を整える。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	森林資源を活用した地域経済の好循環と森林生態系の回復を目指したモデル林を多様な主体が利活用している状態。	モデル林の選定と土地所有者からの森林の管理や活用の関係性の構築。そのための資金と人材確保。
②課題	担い手がないこと、森林資源を経済活動に反映できていないこと、森林生態系が劣化していることなどがあり、森に関わる人が少ないこと。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	副業として森づくりや森林資源の活用を行う担い手を集い、モデル林でのなりわいとなる事業を起こすことで、森の経済的な価値を認識するとともに、森林保全の視点も導入して、担い手が有害鳥獣対策や間伐などを行い、森の手入れを行うことで生態系保全にも寄与する。モデル林での事例をもとに全島展開していくきっかけを作りたい。	
④地域資源	放置された森林がたくさんあり、森林組合などが利用しにくい非経済林が多く、存在する。地域で活躍する人的資源（副業ができる人を含む）は豊富に存在する。モデル林を選定して、その中で多様な主体が広く浅く森づくり・なりわいづくりに関わっていく。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	森づくりに関わりたい人をターゲットに、モデル林で実証実験を行い、そこから得られた商品・サービス（木材、薪、木工品、はちみつ、山菜、椿油、エコツーリズム、ジビエ）を、対馬市民をターゲットに提供していく。	
⑥担い手（Who）	MIT、自伐型林業の実践者、猟友会、観光協会、ハチミツ部会、森づくりに関わりたい市民、森林のエコツーリズムを考えている人材、行政担当者等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	モデル林での事業が動き出すことによって、市民の森林に対する意識が変わり、森との関わりを求める市民をさらに増やすことができる。副業として森に関わる市民が増えることで、森林資源の活用と地域循環がより一層進むと期待できる。	行政や土地所有者からモデル林を借りられるように本事業に熱い思いを持って専属で取り組める人材が欲しい。イメージとして地域おこし協力隊を想定。
⑧事業で生じる成果	森林の価値が、木材の価格や林業事業者の雇用のみで捉えられている対馬の現状から本事業に取り組むことで、社会的な人のつながり（横断的な連携）や生態系保全や鳥獣対策などの環境保全の視点が重要視され、SDGsの推進に寄与できる。	

事業名称2：小規模林業及び有害鳥獣対策等の人材の確保と育成（人づくり）

あらすじ

森は海の恋人と言われるように、ヤマネコの生息地としても適した健全な森を作ること、海の豊かさを取り戻すという視点に立ち、小規模林業及び有害鳥獣対策に関わる事業を推進するための人材の確保と育成を行う。ターゲットは、副業を行う漁師や地域おこし人材などである。

ストーリー

89%が森林の対馬において、生活様式の変化や経済的な理由から、森に関わる市民が非常に少なくなっている中で、森と人とのつながりを再構築し、地域経済の循環と環境保全の両立を目指す取り組みが必要であり、その一つ的手段として漁師や地域おこし人材などによる副業として小規模林業及び有害鳥獣対策に関わる事業を推進する。漁師の普段の生業において、森との関わりはほとんどないのが現状であるが、嵐の後は、荒廃した森から倒木した樹木や土砂が漁港に流れ込む被害が相次いだり、磯焼けの原因になっていることを考えると、漁師が森を管理する視点は非常に重要である。担い手として、漁師が中心になって自分の漁村の森づくりや有害鳥獣対策を行うことで、水産業が基盤の対馬における森と海のつながりの再構築と地域経済の好循環を目指す。また、地域おこし人材が、対馬に定住し、雇用が確保できるように副業での森づくりのなりわいを作っていく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	漁村単位での自伐型林業及び有害鳥獣対策による森林資源を活用した地域経済の好循環と森林生態系の回復により、森林生態系サービスの木材以外の価値を明らかにするとともに、森と海のつながりの重要性を漁師が認識し、森づくりや里海づくりの動きが進んでいる。また、若い地域おこし人材が多く対馬に移住・定住して森づくりに関わる仕事を副業で行っている。	漁師が地域づくり人材が、林業や有害鳥獣対策を行うための研修や安全面の確保、土地所有者との調整、森林組合との連携など。森づくりへの参入に向けた意識啓発や副業補助制度の導入。
②課題	危険を伴う林業の施業を漁師がやることに対して慎重な姿勢を見せる林業関係者を説得し、指導してもらいながら、漁師や地域おこし人材が自伐型林業を行う体制を構築する。漁師や地域おこし人材が扱える未整備林の確保。一方で、漁師や地域おこし人材に対しても、林業や有害鳥獣対策の担い手として関心を持ってもらうことが必要。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	漁師や地域おこし人材が森づくりを行うことで、森づくりの担い手確保につながるとともに、副業としてのあたらなりわいや雇用を生み出せる。また、漁師と地域おこし人材とが連携して、主体的に自伐型林業や有害鳥獣対策に取り組むことで、新たな移住者や雇用の確保も期待でき、未利用の森林資源を活用することにもつながる。長期的には豊かな海を育むことにもつながる。	
④地域資源	漁師や地域おこし人材と、管理されていない漁村の上流にある未整備の森林と増えすぎた有害鳥獣	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	自伐型林業により得られた間伐材や、放置残材、倒木した樹木を、島内消費用の薪・チップにする。A材などの上質な木材は、森林組合を通じて島外で販売する。また捕獲した有害鳥獣はジビエやレザー、環境教育の教材として活用する。	
⑥担い手（Who）	漁師、地域おこし協力隊、公務員（副業を見越して）、自伐型林業の実践者、森林組合、行政担当者、MIT	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	漁師が森を管理することで、木材の島内での消費が起こり、地域内の資源循環が生まれる。また、森の保全が進めば、海の恵みが増えていくと期待できる。	対馬市役所や長崎県庁の林業担当者や水産担当者が新たな可能性を模索し、当事業に横断的に協力的に取り組んでくれることを期待している。また分野横断的に、猟友会などの有害鳥獣の捕獲団体との連携が必要。
⑧事業で生じる成果	モデル的に一つの地区で進めて仕組みを作ることができれば、全島展開も可能と考えている。まずは、一つの事例を作ることに注力し、その場所として取り組みを表明している上対馬町の古里地区を想定したい。	

事業名称3：多様な森林資源の高付加価値化に向けたビジネスモデルの構築（こと・ものづくり）		
あらすじ		
持続可能な森づくりにおいて森林資源の出口を確保することが大事であり、特に、資源の高付加価値化していくことがポイントとなる。多様な森林資源を有効活用するためのビジネスモデルを関係者と構築し、具体的な事業を展開し、地域経済を回す原動力を創出する。		
ストーリー		
対馬では森林資源の活用として、木材や木工品、ジビエ、原木しいたけ、はちみつ等があるが、それ以外にも、エコツーリズム、エッセンシャルオイル、燻製、椿油、山茶等様々な利用価値の高い、高付加価値化できる事業が考えられる。また、木工品や家具についても、さらに担い手（職人）を増やしていくことで、木材の地域での利用が増えていくと期待できる。そこで、本事業をきっかけに、様々な出口の可能性を探り、事業化に向けた実現可能性を探る。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	森林資源を有効にかつ高付加価値をつけて販売する出口を増やし、森に関わる産業やビジネスを新たに作っていくことで、森林資源を活用した地域経済の好循環と森林生態系の回復を目指す担い手が増えており、島が森を通じて活気付いている。	熱い思いを持った担い手とビジネスとして事業化できる支援体制
②課題	森林資源を活用したビジネスの企画・実現可能性の確認、主体的に動く担い手とビジネスパートナー、資金の確保。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	対馬の森林資源を有効活用していくためには、様々な利活用・出口が見出されていく必要がある。出口があれば、森林資源の有効活用がさらに進んでいくと期待できる。また、対馬市の新たな雇用を確保するという課題に対して、新たな切り口を作ることができる。	
④地域資源	森林から得られる樹木や植物、新たなことに挑戦したいと考える若手事業家の卵	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	市民や観光客をターゲットにエコツーリズム、エッセンシャルオイル、燻製、椿油、山茶、ゆず等を提供していく。	
⑥担い手（Who）	MIT、観光協会、森づくりに関わりたい市民、森林のエコツーリズムを考えている人材、行政担当者、起業家等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	森林資源の有効活用によって、地域内での生産と消費の循環を構築できる。また、対馬の森林資源をテーマにして、生産者から加工業者、販売業者、消費者のつながり・循環の輪を作ることができる。	新規事業を立ち上げるにあたっては、対馬市の補助制度などを活用していきたいし、金融機関からの融資などを受けていき、設備投資を行う。
⑧事業で生じる成果	対馬市の産業の一つとして森林資源を有効活用した多種多様なビジネスが生まれることで、雇用が創出され、島の活性化にも寄与する。商材が対馬内で販売・消費されることで市民の森への関心が高まり、森づくりに関わる人も増えていくと期待できる。	